

ほんのもり

ていがくねんむき

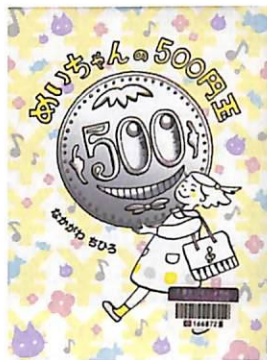
平成28年7月6日発行
発行・編集 熊取図書館
編集・協力 学校図書館

(年 組 名前)

「めいちゃんの500円玉」

えんだま
なかがわ ちひろ/作・絵
アリス館

めいちゃんが、500円玉をひろいました。その500円玉が、にやりとわらって いました。「オレさまは、おかねの王さまだから、すきなものをかいなよ」。
そこで、めいちゃんは、スーパーでいろいろなものをえらんで カゴに入れていきますが、500円玉でかえるものってどれだけ？その500円玉で じぶんのすきなものを かっていいの？お金ってどういふものなのか、みなさんも かんがえてみませんか？



「オニのサラリーマン」

富安 陽子/文
大島 妙子/絵
福音館書店

“わし、オニでんねん。すんまへん。じごくづとめの サラリーマン。”
おくさんも子どももいる赤オニは、まいあさ まんいんバスにゆられて、「じごく」の しごとにいけます。なんだか、にんげんのおとうさんのようで、オニのせかいも たいへんそうです。

おおさかべんで しゃべる オニたちが ユニークで、たのしい絵本です。



「キナコ」

いとう みく/作
青山 友美/絵
PHP 研究所

ゆまは、年中さんのときにひろった ねこのキナコが大好き。でも、ママが、赤ちゃんが生まれるからと、「キナコをおばあちゃん家にあずける」と いました。いやがるゆまに ママは、「もうすぐおねえちゃんになるんだから」と いうけれど。

赤ちゃんよりもたいせつな キナコのために、ゆまは あることを おもいつきました。



「ようふくなおしのモモー又」

片山 令子/作
さとう あや/絵
のら書店

シナモン村で、ようふくなおしのおみせをひらいている きつねのモモー又。

やぶれたふくを なおしてもらいたい 子や ぶかぶかになったオーバーをきている おおかみのおじいさん、レースあみのような きれいなすをはる くもなど、村のいろいろな どうぶつたちと モモー又とおはなしが、7つ入っています。



「アレハンドロの大旅行」

だりょこう
きたむら えり/さく・え
福音館書店



イノシシのアレハンドロは、おしゃべりがすきな大かぞくの中で、たったひとり、なにも はなさない おとなしい子どもでした。アレハンドロを心ばいた おとうさんとおかあさんが、うらないしに そうだんすると、「ひとりで おかのちようじょうまで いかせれば はなすように なるでしょう」と いわれます。そこで、アレハンドロを大旅行に いかせることにしました。



「こぶたのピクルス」

小風 さち／文
夏目 ちさ／絵
福音館書店

こぶたのピクルスは、カバンの中に、きょうかしよ、ノート、エンピツ、ハンカチを入れて、学校にいきました。いくとちゅう、ぎゅうにゅうやさんに 出あいました。ぎゅうにゅうやさんは、いのぶたのおじいさんに ぎゅうにゅうをとどけるのを わすれていたで、かわりにピクルスが とどけることにしました。しかし、おじいさんちにいくとちゅう、ピクルスは、パンやさん、しんぶんやさんにも おとどけものを たのまれて……。ちやうとうっかりものピクルスの たのしいおはなしが、4つ入っています。

「ぜったいくだものっこ」

たかどの ほうこ／作
つちだ のぶこ／絵
フレーベル館

青田くだもの店にある つかわれていないへや。そこには、くだもの子どもたちの 学どうほいく「くだものっこ」がありました。

青田さんちのネコのタマが先生で、子どもたちは、パイナくん、バナくん、リンちゃん、モモちゃん、ミカボン、キイクん、ナシナちゃん、イッチちゃん。ほうかごは、みんなで どんなことを するのかな？

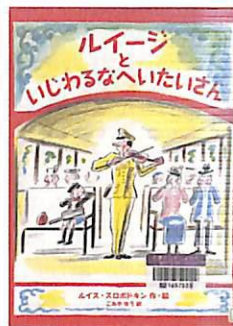


「チョコちゃん」

椰月 美智子／さく
またよし／え
そうえん社

チョコちゃんは、小学校に入学したばかりの1年生です。学校にいくとちゅうの ほどうきょうの たかさが こわかったり、クラスで せの じゅんばんに ならぶと 一ばんまえなので、なんだかいやなぎもちに なったりしますが、それを たのしいことに かえて そうぞうしてみます。

つづきに『チョコちゃんときゅうしょく』があります。



「ルイージといじわるなへいたいさん」

ルイス・スロボドキン／作・絵
徳間書店

ルイージは、イタリアにすむ 小学生の男の子。まいしゅう土よう日、バスにのって こっきょう(くにと くにのさがいめ)をこえて、おとなりのくにのバイオリンの先生のところへ かよっています。バスでは、こっきょうけいびの へいたいさんが、わるい人がいないか、しらべにきます。その中に、ルイージのもちものを しらべるといっては、いじわるをする はなのながい へいたいさんが いるのです。そこで、バイオリンの先生が、いじわるな へいたいさんを こらしめようと、ルイージと いっしょに バスにのりました。

「ベッツィ・メイとこいぬ」

イーニッド・ブライトン／作
ジョン・G・トーマス／絵
岩波書店

ベッツィ・メイは、小さな女の子。じぶんではなんでもできると おもっています。だから、ポストに手がみを出すことも ひとりでできると おもっていたのに……。いたずらをしたり、子犬をひろったりと、小さなベッツィ・メイの、たのしいまいにちのおはなしが、9つ入っています。

つづきに『ベッツィ・メイとにんぎょう』があります。



「動物たちのビックリ事件簿」全4巻

宮崎 学／写真・文
農文協

どうぶつは、いろんなところに あらわれでは、「じけん」をおこしていきます。どうぶつカメラマンの宮崎さんは、たんでいるように その「はんにん」を カメラでおいかけているのです。

「ベランダからハンガーをぬすんだのは?」、「木のかわを はいだのは?」

さて、どの どうぶつが 「はんにん」なのか、みなさんも かんがえてみてくださいね。

「うみのダンゴムシ・ やまのダンゴムシ」

皆越 ようせい／写真・文
岩崎書店

みなさんがしている「ダンゴムシ」は、石の下などにいる 町のダンゴムシではないでしょうか？じつは、海にも山にもダンゴムシはいるのです。おなじように、まるまっでは いますが、すんでいるところによって、ダンゴムシのたべものや 体のいろも ちがうのです。



「アリのくらしに大接近」

丸山 宗利／文
島田 拓・小松 貴／写真
あかね書房

アリは どこにでもいる虫なので、だれでも なんでも しているとおもっていませんか？あまいものや エサになるものを すに あつめているだけじゃないのです。アリの くらしをしている ようすを、じっくり見てみましょう。

シリーズに、「アリの巣のお客さん」があります。



「パンダのひみつ」

松橋 利光／写真
池田 菜津美／文
アドベンチャーワールド／協力
新日本出版社

しろくろもようのパンダ、しっぽは、なにいろ？ パンダには ゆびが7本あるって、ほんと？いつ見ても、ねているみただけど、どうして？……など。パンダの体や生がつについて、飼育員さんだけが している ひみつが、よくわかります。この1きつで、あなたもパンダはかせ！

☆「飼育員さんおしえて！」シリーズに、このほか「ソウ」、「ライオン」、「キリン」、「イルカ」、「ラッコ」があります。



「十二支のことわざえほん」

高島 純／作
教育画劇



ねずみからはじまり、いのししまでの十二支のどうぶつたちが出てくることわざのえほん。「ふくろのねずみ」「猿も木から落ちる」「一石二鳥」……など、たのしい絵と、わかりやすいせつめいで、いつのまにか ことわざをおぼえることができるかも。

☆シリーズに、「しりとりにえほん」、「はやくちことばえほん」があります。

「ばばあちゃんのなんでもおこのみやき」

さとう わきこ／作
佐々木 志乃／協力
福音館書店

きじと キャベツと ぶたにくで、かんたんにできる おこのみやき。「おこのみ」とは、「じぶんのすきなように」という いみです。やきそばや、たまごを入れたり、またまた、ほしぶどうや チョコレートであまくしてみたり、ばばあちゃんみたいに、おこのみやきを たのしんでみよう！

☆ばばあちゃんのおりょうり絵本シリーズに、「アイス・パーティー」、「おべんとうをつくらう」、「おもちつき」などがあります。



「あめあめぱらん」

木坂 涼／文
松成 真理子／絵
のら書店

雨の日 そとにでてみると、ぱらんぱらんと きこえてくるよ 雨の音。

雨のみずたま、みずたままるい、まるいはボール。そしてさいごは？！

声に出して よんでみよう。うつくしい雨のせかいと たのしい ことばあそびの絵本です。





「いっぽんの木のそばで」

G. プライアン・カラス / 作
BL出版

なつのおわりのある日、男の子がどんぐりを土の中にうめました。やがて、どんぐりからめが出て、オークの木がちょうにかおを出し、だんだん大きくなっていきました。どんなに年がたっても、まわりのようすがかわっても、オークの木だけはいつまでも変わらずそこにいるのです。

「シルヴィー どうぶつえんへいく」

ジョン・パーニンガム / 著
BL出版

あるばん、シルヴィーはしんしつのかべに、ドアがあることに気づきました。ドアをあけてみると、そこはなんとどうぶつえん！そこで、シルヴィーはまいばんちがうどうぶつをへやにつれてくることにしました。ところが、ある日、ドアをしめるのをわすれてしまい……。



「まいごになったねこのタビー」

C. ロジャー・メイダー / 作・絵
徳間書店

ねこのタビーは、ふわふわスリッパのおばあさんとくらしています。ところが、ある日、おばあさんがひっこしをすることになりました。家にもつがぜんぶなくなってしまい、だれもいません。ひとりぼっちになったタビーは、あたらしい家をさがすためにあるき出しました。



「おさるとぼうしうり」

エズフィール・スロポドキーナ / 著・え
福音館書店

ぼうしうりが、ぼうしをうるために、じぶんのあたまの上にこうしじま、ねずみいろ、ちゃいろ、そらいろ、そしてあかいぼうしをのせてあるいていきました。つかれたぼうしうりは、ぼうしをおとさないように、せすじをのぼしたままねむってしまいました。ところが、目がさめると、あたまの上にのせていたぼうしが、なくなっていたのです！

「げんきなマドレーヌ」

ルドウィッヒ・ベームルマンス / 作・画
福音館書店

パリのふるいおやしきに、12人の女の子がくらしていました。マドレーヌはその中でいちばんのにんきもの。あるばんマドレーヌはびょうきになってにゅういんすることになりました。みんなでおみまいにしてみると、マドレーヌのおながか……？！

☆シリーズに、『マドレーヌとこいぬ』、『マドレーヌといたずらっこ』、『マドレーヌとジブシー』などがあります。



「せかいいちおいしいスープ」

マーシャ・ブラウン / 文・絵
岩波書店

はらぺこでくたくたの3人のへいたいがやってくると、きた村人たちは、たべものをすっかりかくし、どこにもとめてあげようとしません。それならと、3人のへいたいはおいしい石のスープを作ってみせようと、いいますが……。せかいいちおいしいスープって、どんなあじなんでしょう。